日本建築学会大会学術講演梗概集
（関東） 2024 年 8 月

# 絵葉書に見るヴァイマール共和国時代のポツダム

終身会員　○田　中　辰　明*

ポツダム　ドイツ帝国　ヴァイマール共和国
第二次世界大戦　絵葉書　サンスーシー

## はじめに

著者の知人である上由美子さんの祖父西邨知一氏が欧州に公務出張した。そしてベルリン。ポツダムの絵葉書を購入して帰国した。当時は写真撮影の技術がまだ困難な時代で外国出張者の多くは現地の絵葉書を購入して帰国したようである。その絵葉書は上由美子さんに引き継がれ、無事に保存されてきた。西邨氏が絵葉書を購入した時期は不明であるが、昭和２年(1927 年)と想像される。それはドイツのヴァイマール共和国時代である。この絵葉書にある多くの建物はヴァイマール共和国よりも以前のドイツ帝国時代の建物と想像される。絵葉書を示し、現在はどのようになっているか、解説を行う。

・ポツダム

**ポツダム**（Potsdam）は、ドイツ連邦共和国ブランデンブルグ州の州都である。人口は約 18 万人。東西ドイツに分かれていた時代は東ドイツに属し、ポツダムを県都とするポツダム県が置かれていた。ドイツの首都ベルリンの西南に接し、ベルリンの中心部から約 26ｋｍの位置にある。ベルリンとはＳ－バーンで繋がれている。ハーフェル川が流れ、いくつかの互いに繋がった湖がある、ベルリンの郊外都市と言える。

ドイツの現在の首都はベルリンである。ベルリンはプロイセン王国の首都として発展してきた。ヴィルヘルムⅠ世（統治期間 1861～1888 年）の時代に普仏戦争に勝利し、宰相のビスマルクがバイエルンのルドゥビックⅡ世を屈服させドイツの統一を果たし、ドイツ帝国が発足している。プロイセン王国は戦争に強く、２代目のプロイセンにおける王、フリードリッヒ・ヴィルヘルム１世は「兵隊王」の異名を持つほどであった。プロイセン王室の紋章は裸体の男性２名が長い槍を持って起立しているという野蛮と言ってよいものである。父フリードリッヒ・ヴィルヘルム１世は兵隊王とあだ名される無骨者で芸術を解さなかったが、母ゾフィー・ドロテアは後のイギリス国王ハノーヴァー選帝侯ジョージ１世の娘で、洗練された宮廷人だった。そのため教育方針も正反対の２人は対立し、それは王子フリードリヒにも大きな影響を与えた。幼少から読書を好み、音楽の才能にも恵まれた。プロ並みのフルート奏者であった。農工業の保護育成を行い、拷問や検閲を廃止した。宗教寛容玲を出した。ポツダムにサンスーシー宮殿を建設し、夏の離宮とした。18 世紀には理性重視の立場から古い権威の打破を唱え、絶対王政を批判する啓蒙思想が特にフランスで盛んになった。フリードリッヒ２世はフランスから哲学者ヴォルテールをサンスーシーに招き、共に生活をした。フランス語を学び、啓蒙思想を学んだ。「君主は国家第一の下僕である」と称し、教育の奨励も行った。一方でオーストリア継承問題にも介入し、鉱工業地帯のシュレジエンを獲得した。プロイセンの強国化を実現し、国民からはフリードリッヒ大王と呼ばれ、尊敬を集めた。フリードリッヒ大王は 1786 年にポツダムで亡くなり、サンスーシーに愛犬と共に葬られている。

・サンスーシー宮殿

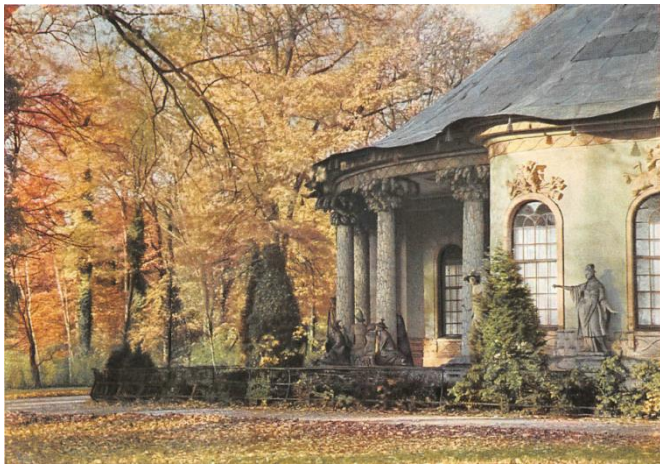
1745～47 年にかけて建設され、フリードリッヒ大王にとって、隠れ家的存在であった。建築家はクノー・ベルスドーフで、後期バロックとロココ様式が混在している。

ポツダムサンスーシーの絵画館（Potsdam Sannssouci Gemäldegalerie）

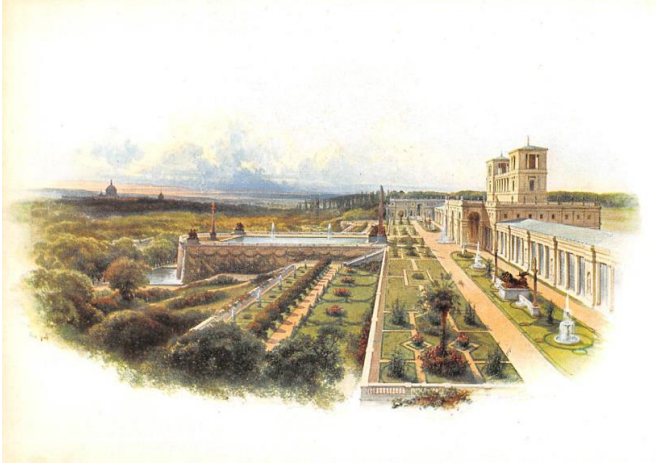
フリードリッヒ大王の絵画コレクションを飾るために建てられた。壁の金色の装飾はブドウの蔦を現している。この建物の前にはブドウが植栽されており、ブドウ畑の中にある建物を意味している。

Seeing Potsdam through postcards from the Weimar Republic era　Tatsuaki TANAKA

・ポツダム・サンスーシー・中国茶館



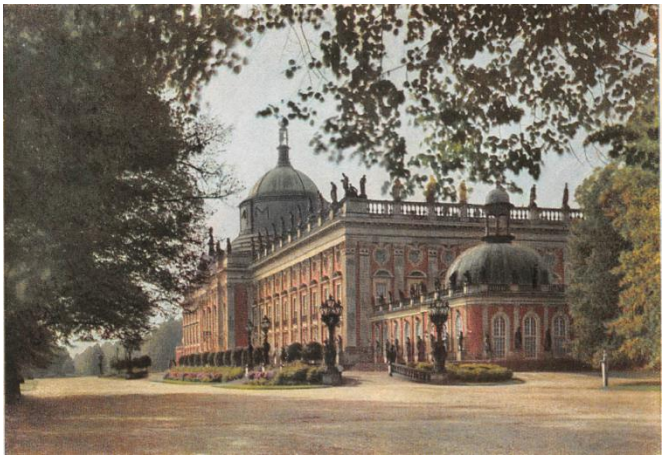
・サンスーシーのオランジェリー



1850 年頃画家 Karl Graeb によって描かれた水彩画。

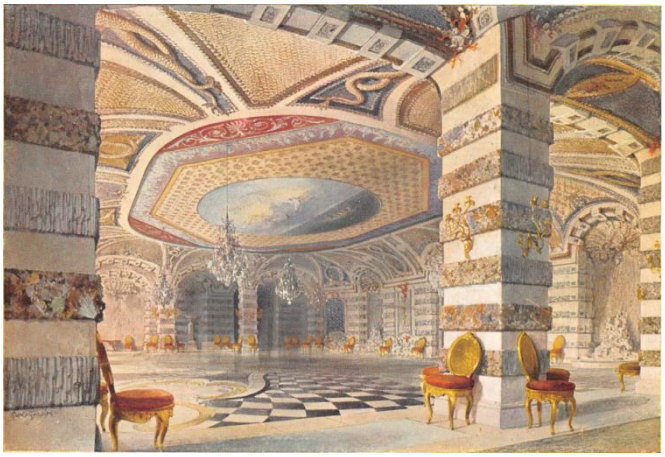
フリードリッヒ大王は植物の栽培に熱心でジャガイモの改良を行い、ジャガイモがドイツ人の主食になった。

・ポツダム・サンスーシーの北東側の新宮殿



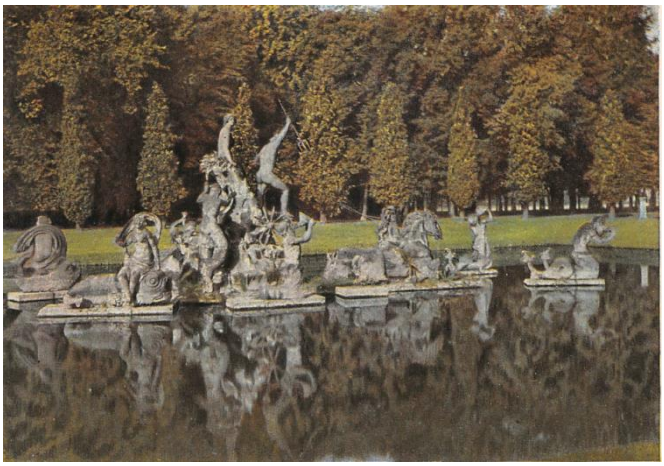
7 年戦争の後、フリードリッヒ大王がプロイセンの威信を示すべく建設した宮殿で 400 室あった。サンスーシー庭園の西側にある。

・新宮殿の「貝の間」



画家 Karl Graeb により、1850 年頃に描かれた水彩画。

・ポツダムの町の城の遊歩公園のネプチューンの池



第二次大戦でポツダムの町の城（Stadtschloss）は破壊され、現存しない。

謝辞：絵葉書を提供された上由美子さん、ポツダムを案内し、適切な助言をくださった Dr. Axel Jahn に感謝する。

お茶の水女子大学名誉教授

Ochanomizu University